御製

惺窩先生文集

和歌文

伍

曽4
775
145

曾4
773
45

悔富士和歌集

蓑生翁

宮城県図書館

いとやはやまぬ奇を世にしらせんの神風の
吹清きへて代の治を祈人代々
たゆまず申れしこゝろの先生せき出人
かんそをひやうしの歌を詠ん
くに井ふくしのむしろの道のゝ郷とも
成きこえ文てふ文とゝえたくにふへ世を
なる代のきをゝ如ひさしひめ尾ゝ代傳
ゝ浦浪にゝ分てかつむやりをてしをほ
草成とゝ詠しられ不のゝ
事ゝ知ゝてこゝいけとゝく開ゝぬ事ゝ

宮城県図書館

[illegible]
人の[illegible]のつまし[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]
小学小[illegible]
[illegible]
[illegible]一隠[illegible]中に[illegible]
[illegible]
故郷[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て行[illegible]
坦上人も行[illegible]林[illegible]
[illegible]
海士[illegible]
[illegible]
講[illegible]詩[illegible]
[illegible]露[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

年月紙をくりしらべ侍ひ[illegible]
[illegible]
て法[illegible]
[illegible]
人有[illegible]名たゝ法師[illegible]
つゝ[illegible]の裏[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

惺窩先生倭讃集巻第一

春部

立春

[illegible]

風やまひ[illegible]

[illegible]

依風知梅

玉ぶくしの[illegible]

柳先花緑

春雨の[illegible]

花徑晴水

[illegible]

霊山の[illegible]

花の[illegible]

[illegible]

花

世[illegible]

深[illegible]

山[illegible]

四[illegible]

[illegible]

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

誰[illegible]

[illegible]

[illegible]

春雨

[illegible]

春雨の[illegible]

雨の[illegible]

相國寺幻菴上人[illegible]

[illegible]

紫杜鵑花

[illegible]

海棠

[illegible]

春山家に[illegible]

[illegible]

[illegible]

題[illegible]

[illegible]

暮春

[illegible]

三月盡

[illegible]

夏部

子規

[illegible]

勝鬼の[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃の歌の[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨

[illegible]

夏月

[illegible]

蓮

[illegible]

納涼

[illegible]

[illegible]

時[illegible]

題しらず

[illegible]

[illegible]

長嘯子和尚

[illegible]人の昔は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天保七丙申年二月望前日起筆

中村直道

惺窩先生倭謌集巻第二

秋部

秋

[illegible]

初秋

[illegible]

七夕

[illegible]

萩似人来

[illegible]

草花部一

植物[illegible]八千種年ゆきのうつり来る花を見

秋夕偶心

さびしさの秋の夕べのうれしさは[illegible]やとふ心ぞうつる

蘭

[illegible]雅の美[illegible]

月

たえてやゝ人を[illegible]

雲[illegible]

晴[illegible]

世[illegible]

花[illegible]

明[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

八月十五夜

[illegible]

世[illegible]

八月十五夜月異

[illegible]

中秋雨

[illegible]

市原野見月

[illegible]

中秋市原看月

[illegible]

たゝくしく世の有さまをもとくやとを思ひ
[illegible]

[illegible]

たゝふる毎ものやいかゝとうんとをもいたゝ
[illegible]

獨見月

[illegible]

九月十三夜

[illegible]

九月十三夜宗淳本[illegible]

題しらず

九月九日

[illegible]

[illegible]

相國寺丹前座許にて菊花折りて三ツ菊花

[illegible]

紅葉一樹

九月晝雨

[illegible]

冬部

山落葉

[illegible]

寒炉燒柴

[illegible]

雪

[illegible]

初雪

[illegible]

名所雪

[illegible]

江暮雪

[illegible]

雪中松樹低

不[illegible]毋雪[illegible]

青山有雪清松性

操[illegible]高根[illegible]

霰

[illegible]

對寒月

[illegible]

寒秋月

[illegible]

旅泊千鳥

[illegible]

河氷

[illegible]

逐夜氷厚

[illegible]

顯[illegible]

[illegible]

歳[illegible]

人[illegible]

[illegible]

歳暮

[illegible]

関路歳暮

[illegible]

二月十四日

直衛

惺窩先生倭謌集巻第三

別離部

宗隆のあるじに酒うりに行るに法師もまた

朝夕つゝ[illegible]袖[illegible]

[illegible]

宗隆の法衣に贈る

[illegible]

武さゝ野に行るに歳暮の[illegible]

也足軒より和答して紙をもとめ二十
一首

今宵しも秋の月朔日さる人の子宮先にも
ひまもなき月やもとめらるまゝにしるしつ
かくとたりぬしに紙あるれと風とかすさま
ぬらるれは袂をはらはすしらくもの
岩床もしらぬ人のいはん

たゝ親たちのもとにかきそへ侍雨の降やまぬ
おのもとひさん老懐をの人とはしまよ紙乞へく
九月まつや

さゝ波はなれぬさゝ枝の雨と玉紙なれ
駿府へくたりさきをまりて
なりはひ世のうちいとつゝ紙をかはれ紙をもとめ
同晦日はあるそのの
老の身紙代かりて礼祈ひ紙をしつる人の子をもとめ
十月朔日都にいたりをてしの
大宮紙をもとめ人のたやのをてとりいとゝ月待雨れ
ちゝへさゝの枝ひ紙れ子ものもあれ世紙
たりはれ紙をもとめ子をもとりみあり
とゝ常乃うさ世をあ世をさかれ玉紙をかはね
かれ世をあり紙
かれ世をあり紙をもとめ

[illegible]

二日

[illegible]

同夜

[illegible]

二日夕方

[illegible]

四日陽明門院歌会和

[illegible]

[illegible]

五日

[illegible]

八日

[illegible]

張

[illegible]

又

[illegible]

愚哀

[illegible]

紀伊国へまうでまし給ひ法華経

[illegible]人々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小幡殿一部関東にくだりひさぐし時薫物
を贈られ同心蘭ばかりいと多く鎧櫃その包
紙にかきそ

東路や秋の野にかをりそめ雲やこの世の
をりをりにたんとくばらせたまふ
ゆゑ時ふれ多くつくりもて
行給ふしるしの心ばせつきなれ
その時船にて界うしの海を渡るまて
海と空とのみ見わたされ月の光
わすれ時
薩摩の国の童子共あそんでもてあそ

[illegible]

東海道より行る時富士山はるく
白雪の降重なりたる山の姿ふかゝりたる色
時なく雪の降重なりたる雨雲高ねの上にかゝれる有さま

同し時

なを情なるかゝ紙を見るにあるかの月あるかなきかの
なるやうなる雲の間より秋の月

哀傷部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浅野紀伊守長晴卿ゟ之時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同行人義経をも知やさきもり[illegible]
名ゆゑの言の葉とゝまる[illegible]
細川内記宗利の法名
かきそへ[illegible]
う[illegible]

丙申二月十五日

中村直道

惺窩先生倭讃集巻第四

戀部

恋

身をいたの恨なれとなを[illegible]
あこ[illegible]
はの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

紅葉

[illegible]

寄雲恋

[illegible]

寄雲恋　代人

寄島恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜部

燈花

[illegible]

[illegible]

雨中竹

[illegible]

山河

[illegible]

海路

碧落無雲称鶴心

寄日懐舊

寄月懐舊

寄硯懐舊

述懐

有老後感

人生

浮世

獨述懐

壮年述懐

老後述懐

[illegible]

驢馬倒載圖

[illegible]

横財樓　樓名

山も紙とそ[illegible]

白雲　酒器名

壽の[illegible]

蟬丸　刻石為像足相坂之舊物也

世[illegible]

宮[illegible]

四の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高野山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桃花源

[illegible]

蒙山

[illegible]

氣象巖

[illegible]

[illegible]

浪花淵

[illegible]

辭書巖

[illegible]

鳥船灘

[illegible]

觀瀾磐沈

[illegible]

市原山荘の景

[illegible]

龍馬潭

[illegible]

手月積

[illegible]

行幸松

[illegible]

巖牆水

[illegible]

北肉峯

[illegible]

流六渓

[illegible]

洗蜜科

[illegible]

枕流洞

[illegible]

長嘯亭

[illegible]

歌枕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

慶長甲辰秋冬法橋と道春書給ふ

[illegible]

[illegible]

駿河より道春をまねき

[illegible]

有てうき身なれば[illegible]やき[illegible]

富士[illegible]

六の歌を道春二十二歳のとき初てまうでゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまひの床にて四ツにもなりて待

[illegible]長崎へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

明暮[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

に開しと云歌
きた神とひとりちりたる
かつらきの神やあけの明神なせ松のうへなる大ひるのやま
うくてをすてわらうれてて
大江山や嶽のさかしつねとも有ける
不の法又ゆ[illegible]
ちりきれて
神山月きよめ清水ゆきとり年たゆたりの無ちりの雪
狂哥
ひとりへていと暗とへ如ゆ行
道者に金剛経ゆ口義ゆ[illegible]

如ゆ[illegible]仏のうちと[illegible]
ちり嶋ん[illegible]
江[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]
下部[illegible]
[illegible]
人乃腦胴腑[illegible]
[illegible]

二月十六日

直衛

惺窩先生倭謌集巻第五

倭文部

長嘯子立春の歌、試和寺にて

[illegible]

[illegible]

波の白菊の花の雪ぬ[illegible]

清見ヶ[illegible]

きぬ川や[illegible]

吉備のさけ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のもとはれあひとも[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗隆[illegible]

[illegible]

何の時[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人めをかへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗隆[illegible]

[illegible]

大和文[illegible]神代[illegible]道[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]京極殿の先人法皇に参り父の祖父ひ
故のよふにいかゝさあれとあつかれ給ふしも
彼伯樂の馬の世に法皇へていハ麻と成うへきに
なりて力なくやとぞ思ふしさても世をいかゝや
思のうこの岩ねふりかゝりうやうきこもりあれて
さはあるゝめあれハ堂をたてゝ法皇を法ふる
城のうひりとゝもほうこうかゝしあるそはりへなる
あるきたるしに知人の美しく祈ちけ法皇は
してはなまれ給世にたゝ共うはねもやれくるりきん
くひくのたしたゝ物ものを車にくたる美女のの
舟城うたへ人をれんあさ海ゝいとや焼捨山たう

[illegible]拾ひくいとせの山の中に拾
白川流もいとあれ花あるのの見ふたる身に
白川のあいはりくあるあるはるる成も賣人をた
法皇市路ゝもてさうふたうふとあるを年月ふ
いまゝ拾ひくはるとゝ物ひたりくゝ白たくもあり
祈ふ物のうふるうちん八童の青海ゝうきも
せん美へ物くかゝ拾ゝ八十漢ちも行うたりて
ひりの物ふ伴ゝ物ねたゝ物くたるひうさまをひまた
ちうちく蝶法ふもあううかるゝ鶴いわもに
かうう成やたゝして住ゝ祈いきに都をうられ
うふたもれひとゝ海ゝくあやゝ賊を拾い

ひさうにてこれなくやがてもつかれ
まうくて朝をのれいとあつきなれハ
あつきをなんをもあまりいとあるをけるうり
よき物うかふかあつきなてをあらうをあらし
たるあ世をはなを馬のうをちうをあるうをぬれしを
あるをなをくをあひてあまくあつしをひつをハ
をあはをまふををうをいをををあつくをを
をひうをあひををあるふかほの人れるをつをををを
をりををしをれをかくかを中ををを人ぬをくをたう
をを行あるを神代の九二をひをきをひて武
ぬををの人をくれををふたうあるをきをを

ぬをををかをんをうをてたのををきをつうをを
ぬをりをあるを柿をの海をうをいかれをえをりこ
ひをををををを嶋のかをを(ぬをををををを)
人れんをりをありをを刀ををををををををれ
をををかををををををををををををををを
小をををりれををあり結いやをくをして深をく
駒のあをなをををををををををををををを
をれ尾のをれををををををををををををを
やををををををををををををををををを
れをををををあまりをを強をれた
をををををを彼文ををををを敬をを
ををををををををををををををををを

のこいれこそ花なくもそのうちなほさくさ
なたくしくむしろひあはあうきなりしたるこそ
あん

春

こゝろやまたあく冨岩戸なほちふしうも
ちりうらへれとのひきいるくさうん
実方あけしもちゝ成春の朝日新
またひしまうの物りさけうなる
こゝろの時まなりし見なくさ色年
いまも神たなる神色まるけ

夏

雲ひちつふうう歌のあけぬま成
秋のものやあくあうまこゝの牛
あさ実柴なはうひもあひねちもある
人こゝろ人の神代なうこ

秋

やうくなひりあ稲夫月こゝ実
ふまあくく秋の東のあう
かくはう神こゝなはう月の
の月なくなあけくれ
秋田秋稲なるこゝ穂なれひて
あまのむこゝ実こたあしなし

冬

神武代の雪ふりまねの朝戸あけて
ながめけむかも高山の
榊ちる沢の紅葉ふりしきて
ゆきかぶるかも人しなければ

癖

久方の月の光の色さえて
まぬがれぬるやなしひとむらし
きりぬきの白波のあやりて沢る機の
音たえぬるかも
初霜の降ぬるかもの白たまつ
ぬきく

わたしひ〜の沖の沢さやけ夫はかり

羇旅

ゆく雁のこゑ〜ゆくひまに行くく空と
鳥絵あるひの面のうつる舟

述懐

ゆくすゑ〜ながひしてをもしらぬ
海をうらあの絵をの沢
浮世の沢の八重の青柳一面をもて夫
をのをいふせきくもまの夫うの宗
うしはしもへ人まの世をを百たり沢
八十隈ちゆやかるる絵行面く

哀傷

あめしたの人おやのなげきなる夫をあ
ひなくしてのち一條の御とくらう

賀

たけき武士のかくれなき歌のたくみあれ
ばかくのごとくかれあらばうたふに
長嘯子につかはせる詞

かたくなる海のなかるるまつ人もあさりにあほの浮
巣のうたふにもいとまなきはかりたかふなく
てうくやたくしあるけるれやうとて
人の漢詩をもとめんと世たらはまへらはあ

ものしらぬ武士にたりて教ありれたつる弟
はたらかるるもんん於商ノ家うまれつきたりに
きんあひ思ひ牛なりぬれ縄さ後馬ひ思
もたしかくらんいけみひしの留へさ世たしも
はりうれれやあんとうたはくく人なく
かはうれれ不ひはたらあるあんうきさ
恋ことたへしあるんはくらあるくうあ
いろはも和与河の流るはうれ明とのはの流
れひかはあくれりあるあ後はるれ庭の流と
京極はたれはるあ後都のうれ後
留てもあるかしめ考ふれはやいふれはもんと

いつもせあるあるのやりあるやりあるやりあるまた
薄ひとむら載をへたる朝夕絶えさるひたすらしむ
ひかりを今をたかつをとと聲絶あるをあるかをあり
をとりあるをうたふをその落の奇
あるをき野の出あるねるをあるねるをあるねるをあるく
ひとむらをあるをきを載をあるをあり
面をうたふ絶を奇
身絶をあるをあるの山をあるをあるた
なを絶たふをあるを絶をあるをあるけ
絶をたの出あるをあるを月をあるをあるこをあるを出れ
りふをあるをあるをあるをあるを絶をあるあるをあるを

月をあるをあるを紫をあるけるをあるをあるをあるをあるをあるを
うきをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるけ
るをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるの杖をあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを
あるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるをあるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]のさうれうとなりぬとて
[illegible]舟のさうるゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

きんとの歌にてなるべし夫帝は西
けうの紙のこゝろをもあらはしたまひ西面へ
たまふ

右の長帝山の西面せゝの紙せい紙
紙もしらるれ歌ゆたかなる
あるこゝろをけたる人とうるわし
ゐひかきしたくいつくはれんや花
元和五年春夕顔巻の詞きん道玄に
紙くまうきたる
五條にうめとあるうれ紙ゆたかなるまゐひきて
白くさけ四巻の巻の人はなるものやはたはぬ

きりしたいきゆとしらうきしうは
あるゆとの紙たねるいへれたくうれれかるもや
はるもれんうゆ歌はるまうゆ歌ひうう
かうへ知るり

たねしあるはの紙はやまとも
かうきんうたあり夕顔の花
山のへと又をかるゆ紙のまさかうゆ白花
白紙はるもきうれ花のうるはのうるひとうれ
とはかるの巻とかるこ文字紙ひとうゆ
るうはきとうけはる露能夕月の夕べきう
くひうとあひるあるうゆ紙なりけりかう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昔山がりし人の虎と化せしなりとの世あり
あるものやうにまたかたりつたへられたる
て虎ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
人[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

はうの法をもて一とせたるさうしあへかき
もらしやその身に沖をきてもかりきんよりたの
人の為にいと惜しき事なるべしと
當ひてしるしたるこの沖をもて
一とせたるに明をもひたぬれば
世を書かのの文書を取て身はうもし
ものをもてきをひかあり
壁の中石をもかくしかくしかき
世をもかくしたに名をもうし
朝鮮の刑部員外郎なりし博士姜沆の五言
四書れしの道絶うせ後絶て久しき禪

僧玄蘇式試科のさきにいかもたれ行りて
國のもありての世をさうに行きしめや
菅右相道真公の遺稿ものを書の世に流
きうと被博士のいひ者をくに戦國にうかて
かりにうさうにうれるん勝の文を
たのしかりひいくられて時又立聖の才乃ぬき
のを石いと沖れうに沖あり沖を感しあり
きれかの文乃紙くかくかくと云うき記せて
見て沖のうと法國平うに居りいかし
学のうて行しうしまのの國人を
学のあるのうの名をのうの沖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元日

[illegible]

前載[illegible]花[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小祥忌

朝年[illegible]正忌[illegible]小[illegible]墓[illegible]

[illegible]

[illegible]

七年[illegible]

[illegible]

[illegible]

大祥忌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あやしの海のう[illegible]ら[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
興[illegible]
利[illegible]
[illegible]
[illegible]

蓮生[illegible]
[illegible]
[illegible]の暮[illegible]西山にまうし[illegible]

山畑ふるひのとろかんうち[illegible]
しく[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

君臣之事

夫君臣者天下之綱紀也故聖人作之以為
禄以報之令以行之使以尊之是以君臣之法分明周之
以常以敬之道也故曰君臣之義明而後百官
治而後萬民養也故聖人作之以為綱紀祭之以敬之
令之賞之以上法天下法地中法人三才之道
也賦稅以均為常法則均平之法二年乃行
厚之為常法厚則國之年穀多而民
治少如此小人之所以為國者其人
為君臣之義也一國之

諸侯を悉不悉と察しめ給ふと吉祥日とに
あつまりて国治まる天下やすからんと祈りひめ氏
祈りに兵乱不慮外殺害天下かたちを発りんと
思ひ此安危の二途最法令の中に置て後欲寝
を絶り食せず家国天下の平にるんと成祈り
是に家明の祈りとして法花経一部奉り織分
祈り又家るるときかそを其陣に立て再こいつきめ
家成勵まし諫せ給ふも法勵を毎不行徒又
一旦の計成て民を物と剛取者に奉る者成良
法に日夜小機変の巧成めるし若如諸とい
若成賢才と法勇時に其国ゆ法七国然剛

法見機其国とかるるれ異時ん法とゆふさる旅
さ勇ゆ故ゆ勇時を其身成錦に法とゆり禄成
うるを得て故事とかるる只道徳のことを高くし
修己以侯命此成国姓貴威の臣とこを是若法
小義あ故のとかるゆり

又ゆ云ふ事

凡文を学者ゆ成愛ゆ勇ゆ天道ゆ自然道先世法
を八何以又とこを云へきや愛法勇法道ゆり能ゆ人
物成とこへ智深徳高かしめて若徳と正し
天下の政道成国様ゆ法ゆり法世と成て賞ゆ
愛とこを勇也徒に成成ゆ者ゆひせを勇時を

彼鳥獸の其母と愛し牡牛たるの母牝牛の
海内を為す所以の異なるを以て世間の人貴賤共に
隨意のままにて世を治めるやうに能教と
なれども貴賤を賤と為す天下乃輔相と為す所以
て文を教則貴人の子下位なれども賤者の子及て
上位に登る者多し彼貴賤の人無教則何を以て
天下とをさめんや此賤とは有能則天下
の輔相たるべし是とは牡牛の母牝牛へ
の用ゐる所其父より多是故に殷の湯王と其
子の武民間に下して民を辛苦に知し周公は
伯禽とをけまた此誡の子に武王の子の唐也

又子たる者の父に孝に父に孝なる是亦天職の自
然也無孝は行とりつて子たるの道也や孝に
父母の道あり只親に養ひ勞をかけ牛馬まで
共に養ふ犬馬まで養ふ人の子たる者何を以て
く孝といふんや凡人の子たる者親に敬せざれば何を以て
以て孝とす身に之道と行ひ己を名と天下平樂
則其親悦悦則ち大なる孝也
是故に舜の孝を四海遠
武王の孝は天下に通じ此を父母にをさめ
天地之事
夫婦者天地のをさめ天地の和合つる所也天

の中庸に懼るる是故に男女に別あり夫婦の倫真葛の中谷なるひとり其業
内外親しく文王の后真葛の筍洲の人列女伝に後妻
婦人を織て其成るを安うするを以て俗
へて文王も又天下の法とあり其勞苦し民の
安をもんぐるを推ることを以て是文王をほう
ぜしめるを以て夫婦を内と潤へ給ふ此夫婦の德
みちて天下の政国門の内より起る故邦
自然に治ぬ或ある人の意あり其所以得ること此分
夫婦の別あるの意なり

兄弟之事

兄弟を天より次第をもつて敬へ中庸に雖知者
也是なれ小上に有兄弟兄を弟兄を弟に長幼
兄と弟敬別其卿黨鄉里より国に及て必
法を法とし如此則兄弟の敬より起て国治る
事あり是成兄弟に敬ありてしかる

朋友之事

夫朋友を他人と他人や交る何以四方の内
いつれか父子兄弟の間にといて自いひきの
あり他人よりもんとしてそこに情意以仲を
なんや是以四方あるもの五倫と號ち
朋友と信あり故以て朋友と人五倫是非以

諫ありて益あり家業すれば朋友を
義を以て合し かの朋友の非ある時は諫
ちさ法ちう出へきに此人弥近ちたれは
ひ以思く諫ていさめ過せしいふの輕を聽
厥親しうを求うしあり及て落せられ是ハ義
もなく信もなき朋友なりかくなりたる者
なり奥仏ふ云へうに此奥仏ふく辨て信あり義と
以ち法仏明なる信ありと云なり

嫡子幷庶子之事

或人云嫡子と庶子と輕重有りや
問ふ妻も妾も共に我婦也 功なくひとし

うに根株なれは枝葉なり根株なれは枝葉なり根株なれは枝葉
聖子の解脱なりと卓ろくの才を出す 能則ち人
事子其器量才能次第かうしはなるべしと
能作りんと云へり 曰嫡子を天地文泰の德
ありて生る夫婦は世配を示す也 彼妾婦を
侍女のなくひとしく以夫婦に対ふ所なんや
是故に嫡子ハ庶子ハ輕し 細れも天子の
子なり 庶子ハ卿大夫 嫡庶等にいたるまて十五
より若大學に入り 理をさとりあるに以て正を
修の人成法の道を教て後に太子以て天子
に伝ふ法を奉る 用天子の庶子をハ國に封して

諸侯となる人公卿大夫の嫡子と其家に仕へる庶子ハ
其才あるうて或ハ天子に仕へ或ハ諸侯につかへ
別に家あり是に仕へて能く其夫倫に背て庶
子を重くし嫡子を軽せんや若愛に溺る人意
をうつして私に計則綱紀乱る人道を乱る
大人なる者不可不慎乎

女子之事

夫女子を不幸にして男子に生れ足にふれて女子
と成ぬ人の幼稚の時ハ親の左右ひ
若き時ハ男に従ひ老てハ子に従ふ是故に
人君たる者女子の師傅を女の師匠に成
ぬと其所をとゝのひ教ゆく所に成いく卿も
人なるべやうにし師傅ハ教ゆく成人
ハ其女子に教ゆと雖やいとく
回その師なれと成人
関雎の篇に成ぬ関雎ハ后妃の德
夫婦和合の至り彼関雎鳩河乃洲に
和鳴し男女唱へ女後に順ふ是夫婦の別
なり彼聖女を学ぶ人ハ何に成て女子の道を
いとんや凡女子たる者ハ父母に孝に成て
幸男裏何樂て演し家て傷るへきんや男女
愛にをりて男狎ハ女乃情なり夫相共に和
樂して敬ひ其身を慎むべき成いく其子をとし

おいさ所を以て婦人の道とす 肝胆の夫くを
所時八男女共を舎うし女子男子家〳〵へ行て紡
一家の中紡ぎを一家乃内紡ぎを一家時八其
法国法なる時八其国法なるし 亡し紡教制度
此女子紡ぎ物の法なり

妾婦之事

蓋大夫たる者八妾婦二人士たる者と一人 妻とも
婦婦 妾婦の分あり此理紡ぎ物時八大人八
国紡うるひ小人も其身紡ぎ国幽王も
惰其本妻 妾婦とも〳〵太子紡しつ妻 無
子紡を用 是法用て 戈戎 称して 又子とも

れをかゝる妾婦と持くその身紡ぎ
ものなり 儒年等是也 只紡婦 妾婦
妾紡のく 其分を志ちひ其宜しく合ときんと
何乃あや所りのあるんや 婦男家とれ女篇
小帚とる字 彼婦婦を常と帚紡りつく
家とき家紡ぎを紡ぎ是八婦乃道
なり 妾婦字とれ女篇 立と云字也 此妾婦乃
れをつくは紡を是 侍女乃たくひ立くく 侍御女
侍使身を紡りひく常紡敢て室家とき
妾家と治て子孫永年紡ぎ志を紡 侍女
志意也 此婦 妾婦二字紡くも 意得給

ひとえに知深くして朱に變通を為す良能なり
故に何ぞ天下を人民に治めさせんや
況や彼婦人を討ずや況きをや彼
文濤國之事
世れ國を大小あり大を小に侵すを大
侵すと是必ず能の理なり今已之國大なり
人民國小なり當時は能人の小國に侵すべき人
國大なり已の國小なり時を能大國に
つかうまつりて交通或人云必ずして
何益ありや曰已之國大なりて人の小國に侵め
くゆん時は彼小國にて喜ぶを進ぶ憂を進

世おの二を天理に自然大小を理に當然
に侵す事交通不絶天道は德あるを天下
に帰すべし已小國也と雖も其德
漸くに積て天下に者清小國に德を慕て
各帰服則吾事へ交通を大國と互て我に
たらふ況や其國に於や況則天下何我に
入さんや殷の湯王を小國に於て大國に
に入へ仁政を德に於て天下を帰服
周文王をまた小國を以て大國に入へ仁政を
德として天下に於をも行へ是等を其効
也吾德をもつて國と交則隣國大小を中に

及て次天下治服して吾ハ堯舜と称すと民と亦
堯舜の民となる此交り既先此にして
小國はめて無事なり次て大國よりふ巧とめ
くらし後世人の國を伐り天下統等と
爲れ次是天理の自然禮あり儀
則也如此則必たち下次得て子孫天下次得て是次
元亨利貞なり次
漢國に交りて吾人と待の禮を以
隱居と事
夫人者二十にして冠し三十にして妻娶
て五十にして官を返遁世の
ものと其身ハ如何なる故か隱居と云去て
も其人の德高き時ハ朝廷より杖を賜て又奈
内して論道談義いくそ八九十歳に及く
朝廷に杖たくしも分しそ時ハ天子自その座へ
行幸ありて長年を祝し給ふ何ぞ隱居
ふ人や彼商山の四皓の避世箕山の許由の隱居
不足論矣然れとも是ハ君に合ず德高く道の
居なき時ハ年ハ留居し道の興るを慶給ふ
人年の可貴と天道ハ盈虛人の力に及ところ
に非ず待て深く世ハいとひ隱居なくして可乎
欲丈蔣詡之幽居劉禹錫之陋室何とも申しき

年頃学ひてとゝ久しくあり夫こ徑の下に右道
陋室之中かゝ無白丁東籬の下に松菊猶存獨
樂園かゝ明月乃時に至て清風自来此時に徳
ある者し酒を挙て琴を弾し先生の道を論し
天道一致に奥妙を得天年を終る事難し
ねがうべき事なり是を隠居といひて可
欲右節目十條四書詩禮等の中に以て
答を申べし〳〵なを大切に心得べき事
ありてあらゝ〳〵ト上作の所に大切なる差
ちがひ有るべし

右若居し事うう隠居し事
年至まて とちう
後陽成帝中使を以りつ東宮
院宣を伝へ 文
作進哲歌 若

右

右幅窩先生倭哥集五卷刊本三本者

天保七丙申年春二月二十一日書寫之

中村萬吉直衛